

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570400303		
法人名	社会福祉法人 山口県社会福祉事業団		
事業所名	グループホーム オアシスはぎ園		
所在地	山口県萩市大井1689番地13		
自己評価作成日	令和 6 年 11 月 15 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業団の理念である「その人らしさを大切に」を基本としながらも、事業所独自の理念を作成している。その理念を念頭におき、利用者の思いに添えるよう職員全員が工夫しながら、日々の支援に取り組んでいる。
毎月、懇談会を開催し、利用者から聴き取った要望等に応えられるようにしている。例えば、調理の日に食べたいものを聴き、献立に取り入れたり、外出したい先を聴き取り、月1回の外出支援の際には、応えられるように計画を立て、実行している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3570400303-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 7 年 3 月 3 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

評価当日は雨や風が強かったが、施設の玄関を開けると天気を忘れさせるかのように、管理者と利用者が笑顔で出迎えてくれた。法人理念である「その人らしさを大切に」をより浸透させるべく取り組んだ1年であった。スピーチロックを減らせるように、リビングに置き換え言葉を貼り、身体拘束委員会で、振り返りの場を設けている。その成果が徐々に表れ、スピーチロックの意識が高まっている。月1回の懇談会にて、利用者から外出したい場所や調理の日に食べたい物を聞き取るようにしている。毎月の外出支援では、松陰神社、陶芸の展望台で紫陽花を見て、奈古(なご)の道の駅や近隣のスーパーでの買い物、海や山の景色を眺め、春には桜を見た。嗜好調査をした上で、餃子付きラーメンやかき揚げ天ぷら、利用者と一緒に買い物へ出掛けて握り寿司を購入、冬には熱々のおでんを頬張った。管理者は、出勤した際には必ずの利用者全員と挨拶を交わし、TVのニュースや最近の話題についての話をし、コミュニケーションを図っている。施設を一言で表すと「明」と答えてくれ、明るい日差しが差し込むリビングでは、明るい雰囲気過ごしている利用者の様子も窺えた。また、グループホーム理念にもある、明るく笑顔で接し、思いに寄り添っている施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、事務所内に掲示し、目につくようにすることで、共有している。	法人理念である「その人らしさを大切に」の文言が玄関、事務所、各ユニットのリビングに掲示している。GHの独自の理念は手書きで事務所に掲示している。法人理念は、毎朝園長と一緒に確認する機会を設けている。新人職員には、入職時に説明して、介護業務の中で浸透できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの道の駅へ出かけたり、地域のふるさと祭り、サロンへの参加を行うなどし、地域とのつながりを大事にしている。また、週1回、馴染みの移動パン屋での買い物を行うことも行っている。	秋には、大井のふるさと祭りに参加した。奈古の道の駅に出掛けて、出会った方と挨拶を交わしている。毎週火曜日の移動販売のパン屋が利用者の楽しみの一つとなっている。地域の農家からお米を買っている。手芸クラブの方との交流も続いており、コースターや小物入れ、フクロウの人形のプレゼントがあった。	地域の関わりを今以上に深めてみてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームとして地域貢献は行えていない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことで、実践できていないことを把握し、指摘事項に対し、改善策を検討し、改善に取り組んでいる。また、支援方法の見直しの機会にもなり、職員間でケアについて検討する良い機会となっている。	外部評価を受審するにあたり、評価項目を管理者が作成した。評価結果は会議の際に、職員に伝達するようにしている。また、気にあることがあれば各自で確認するようにしている。課題については、管理者から職員へ伝えて、全員で取り組んで解決できるようにしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、運営推進会議を対面で行っており、利用者状況や活動報告、感染症に関することなどを報告し、そのことに対する貴重な意見を参考に、サービスの向上に活かしている。	今年度より対面で実施。4名の民生委員、2名の消防団、市の高齢者支援センターの方、GH職員と利用者が参加している。運営状況、活動報告、感染症について話し合った。モニターを活用して普段の様子がみれるようになり、わかりやすいとの好評の声が挙がっている。	
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールや電話などで連絡を取り、事業所の運営に関してや利用者のサービスに関することなど、伝える事で、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	窓口は管理者が中心となっている。介護支援課には、直接書類を持参することが多く、顔を合わせる関係が継続されている。メールでやり取りすることもある。運営推進会議にも市の職員が参加している。法人での取り組みとして、中学校に向いて、介護の講座を開いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、職員の身体拘束廃止に対する意識を高めている。また、年に2回、研修を実施し、身体拘束しないよう、職員への周知も行っている。	身体拘束の確認やスリーロックについて学びを深めた。今年度の目標として、スピーチロックを減らせるように取り組んだ。キッチンには、スピーチロックの言い換え表が貼っている。年度末の集計では、減っているとの結果が出た。年2回の研修では、動画を視聴をし、簡単なテストにより、振り返りの場を設けている。	スピーチロックについての意識を更に高めてみてはいかがでしょうか。
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に、虐待防止委員会を開催し、職員への意識を高めている。また、年に2回、研修を実施し、虐待に対する意識を職員がもてるようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で、権利擁護に関する研修を行うことで制度等への理解を深めるとともに、利用者の制度活用の必要性について意識することができている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書に沿って、話をし、質問等は、常に受けるようにしている。解約時にも話をし、分からないことや疑問点は、解約後も受けられるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者や苦情解決第三者委員をはじめ、苦情処理の体制については、利用者及び家族等に周知している。また、苦情マニュアルを作成し、苦情窓口・意見BOXを設置し、意見や要望を受け、サービス向上に反映させている。	月1回の懇談会にて、外出したい場所や調理の日に食べたい物を聞き取っている。サロンに出掛けた際には、大好きな焼きたての焼きそばを手に取って満面の笑みを浮かべ、冬にはおでんを希望される方が多く、鍋を囲んで美味しく頂いた。家族からの要望として、外出支援が挙がり、実際に外食や自宅へ帰られた方もいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、職員の意見や提案を聴く機会を設け、反映できるよう努めている。管理者も、グループホーム会議などで、意見や提案を聴き入れ、反映できるよう努めている。	月1回、ユニット会議やGH会議がある。何かあれば随時、管理者は話を聞く場を設けていて、直接意見を言われる方が多い。管理者で解決が難しい場合には、園長と相談して決めるようにしている。有給休暇や希望休も取得できている。利用者によりわかりやすいように「ここを通らない様に」との貼り紙を掲げ、安全面に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況等を把握し、職員がやりがいや向上心を持って働けるよう、職員からの聴き取りを行い、職場環境の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修を受ける機会があり、力量の把握にも努めている。	GHの内部研修では、虐待、身体拘束、感染症対策、認知症について学んだ。法人全体では、ハラスメント、権利擁護、アンガーマネジメントについて学んだ。外部講師を招いて、感染症の訪問ラウンドを実施して、対策やアドバイスを頂いた。新人職員へは、研修をした後に、現場から学ぶようにしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の取組を聴きに、施設見学に行ったり、新たなことを始める際に、研修を行ってもらったりし、他施設と交流する機会を作り、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いを傾聴し、信頼関係を築けるよう努めている。日常生活の会話の中や月1回開催する懇談会の中で、要望等、聴きとるようにし、安心して生活できるよう支援している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、家族の思いや要望を聴き取る機会を設け、信頼関係構築に努めている。家族の意見、要望は、介護計画に反映させている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に、利用者、家族の要望を聴きとり、必要としている支援を見極めるように努めている。また、支援について変更の必要があれば、職員間で早急に検討し、安心して生活ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において利用者一人ひとりができること（食事を作ったり、洗濯物をたたんだり）を見つけ、職員が支援しながらでも利用者が自分でできるようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には職員も同席し、日頃の様子や本人の思いを伝えている。また、利用者の心身において不安な点があれば、早目に家族に連絡し、対応策を協議している。 誕生日会がある際には、家族からのメッセージカードを送ってもらえるように声をかけたり、月1回の写真入りのお便りにて、利用者の状態を伝えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や馴染みの場所等への外出支援を行ったり、地域のサロンに参加し、顔なじみの地域の人と、昔話をしながら過ごす時間を設けている。	面会は玄関先で対面で実施していて、週1回来られる方もいる。5～6名の方は年賀状のやり取りもあり、2名の方は携帯電話を持ち込み、家族や知人との会話を楽しんでいる。外出中のドライブでは、馴染みの風景が目飛び込むと、懐かしい気持ちになる方もいる。ショートステイや特養におられた方は、園内でも馴染みが形成されていた。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流する場では、人間関係を観察し、配席などに配慮しながら、トラブルや孤立を防ぐよう努めている。 また、利用者が助け合って作業する機会を設け、利用者同士の繋がりを大切にしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者家族からの相談にも対応し、利用者の状態を確認するなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	懇談会を月1回開催し、本人の思いや希望（調理の日の献立や外出したい場所など）等の聴き取りを行い、献立に取り入れたり、外出支援先にしたりして要望に応えらえるようにしている。 また、3ヶ月に1回、カンファレンスを開催し、本人の意向に沿ったプランになるよう検討を行っている。	月1回の懇談会にて、外出したい場所や調理の日に食べたい物を聞き取っている。ふと、つぶやいた情報でも日誌に書き留めて情報共有をしている。散歩や入浴時といったマンツーマンの際に意見が出ることも多く、貴重な場となっている。あまり言葉を発しない方へは、家族からの聞き取りや担当職員が居室で話を聞くようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴等について、入所前に家族やケアマネより情報収集を行い、介護計画作成の参考にしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の生活状況、発言、心身の状態などで気になることは日誌に記載するようにし、様々な情報を職員間で把握できるようにしている。また、その情報を支援に反映させるよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回、カンファレンスを開催し、看護職員、介護支援専門員を交え、本人に合ったプランを作成している。利用者の状態に大きな変化があった場合には、早急にカンファレンスを行い、計画の見直しを行っている。月1回のモニタリングも実施し、現状の課題を見出している。	介護計画は、入居時に暫定プランを立てて、何もなければ、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月毎に作成している。GH会議でカンファレンスを実施している。担当職員が中心となり普段の様子を確認し、ケアマネジャーと相談してプランを作成している。モニタリングは毎月実施して、3ヶ月で見直している。利用者の様子に合わせて、現状に即したプランとなっている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に日々の様子を個別に記載し、職員間で共有できるようにしている。また、利用者のケア方法の変更などは、引き継ぎ簿を活用し、情報共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態変化に伴い、提供するケア方法を職員間で検討し、試行しながら変更できるよう取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの店への買い物、サロンへの参加など、地域資源を活用しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医についての希望を聞いている。内科については、協力医療機関の往診を月2回受けている。歯科についても、希望があれば往診対応している。受診の際には、家族に一報入れ、診察内容を伝え、診察を希望するか希望を聴いている。	入居時にかかりつけ医は選べ、全員が協力医に転医している。月2回の往診があり、ドクターとの関係も良好で、和やかな雰囲気にも包まれている。常勤の看護師がいて、医療関連の窓口ともなっている。看護記録やバイタル表、日誌に記録して利用者の情報を共有している。必要に応じて歯科往診もある。他科受診は、家族か看護師が対応している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異変等に気付いた際は、看護職員に報告し、適切な処置、対応が受けられるよう支援できている。朝夕の引継ぎ時に、看護職員からの利用者への対応に関する情報も伝えられており、情報共有できている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院する際には、グループホームでの情報を提供し、安心して治療できるよう対応している。また、入院中、利用者の状態確認を行い、早期退院への対応も行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでできることを伝えている。グループホームでの生活が難しいと判断し、介護度も上がってきた段階で家族へ他施設への入所申し込みを促したり、併設している特養との連携を図り、入所できるよう取り組んでいる。	看取りは実施していない旨を入居時に、重要事項説明書にて確認をしている。重度化された場合には、法人内の特養に移られる方が多い。終末期を迎えた際には、協力医院と連携して話し合いの場を設けている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	事故があった際には、会議の際、振り返りを行い、改善策を職員間で周知し、再発防止に努めている。定期的に、応急処置や初期対応の訓練は行っておらず、実践力を身につけているとはいえない。	ヒヤリハット、事故報告があつた際には、該当職員が記入するようにしている。日誌や引継ぎ時に確認し、情報共有をしている。法人のリスクマネジメント委員会を開催し、事故が起きた状況や場所を表にして見える化を図り、今後の課題として取り組むようにしている。事故が起こった際には、紐解きができるようにフローチャートのようなものを使用している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時や夜間の火災における避難の方針を書面に記し、避難方法や手順を職員に周知するとともに、地域の消防団と運営推進会議時に話をするなどし、協力体制を築いている。	年2回、GH単体と法人全体の訓練を行い、火災・津波想定で実施し、利用者も一緒に避難できた。消防署が来られた際には、消火器やAEDの使用方法について学んだ。備蓄は、水や非常食を3日分、GH内で保管している。事務所にハザードマップと連絡網を掲示している。消防団の方が運営推進会議に参加されているので、連携も取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理や接遇についての職場内研修を実施するとともに、プライバシーを大事にする環境作りに努めている。 入浴時、排泄時など、一人一人の対応を行い、プライバシーを損なわないように対応できている。また、プライバシーな内容を尋ねる際には、他利用者に聞こえないよう配慮した声掛けを行っている。	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、反応がいい場合には、下の名前に「さん」や「様」で呼ぶ場合もある。各部署でのチーム目標があり、今年度は接遇面の強化であり、不適切ケアに関する研修も行った。居室に入る際には、本人の了承を得たり、ノックや言葉掛けをしたりして、入室するようにしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇活動の提供時、何がしたいか尋ねたりすることで、自己決定できるよう働きかけている。また、話しかけやすいよう、利用者の様子を見て、声掛けするように心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の動きに合わせて、余暇活動や作業の提供などを行っている。本人の気持ちも汲み取り、活動への参加を無理強いないようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみは、本人が着たい衣類を着てもらっているが、必要に応じて介護員が支援している。 整容できるよう、洗顔タオルを提供したりしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部委託の配食を利用しているが、毎週木曜日の昼食は「調理の日」とし、懇談会で聴き取った利用者の希望に沿った献立を提供している。その際、食材を切ったりし、一緒に食事の準備を行っている。また、おぼんを拭いてもらったりと、片付けも一緒に行っている。 誕生会がある際には、誕生ケーキ作りを一緒に行ったり、週1回、菓子パンの移動販売があり、希望者は自分の好みのパンを購入し食している。	3食ケータリングだが、毎週木曜日に「調理の日」を設けていて、利用者からの嗜好調査を参考にし、おでん、ラーメン、天ぷら、寿司を提供した。利用者は落ち着いて、静かに食している様子が窺えた。誕生日会ではケーキ、おやつ作りでは、たこ焼きを一緒に作ったら喜んで頂けた。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量が分かるよう、表にして、いつでも確認できるようにしている。また、1日の水分摂取量を決め、ボトルに作成し、提供している。会議時に、本人に合った量、形態が提供できているか検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合った口腔ケア用品で口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認している。水でのうがいが必要な利用者に対しては、ウエットティッシュで口腔内を清拭するなど、介護員が必要なケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがない利用者に関しては、声掛けや定期的な排泄誘導を行っている。 また、一人ひとりの尿量にあわせた尿取りパットを使用し、利用者の不快感が軽減するよう努めている。	トイレは各ユニット4ヶ所ある。排泄チェックは日誌に記録して、職員間で情報共有をしている。自分で行かれる方が普通のパットから装着パットに替わった事例もある。5名の方が自立でトイレに行っている。布パンツで過ごされている方も3名おられ、夜間のみポータブルトイレを使用されている方は6名おられる。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別で、排便に良い食べ物、飲み物(牛乳、ヤクルト)を提供したり、体操を取り入れたりして、便秘予防に努めている。 下剤については、利用者の排便ペースに合わせて服用している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間については、可能であれば本人の希望に沿うよう対応している。行事や往診などで入浴日や時間が変わる際には、利用者に伝えている。 入浴には、ゆっくりとした時間をとり、リラックスできるよう配慮している。 身体の状況により、必要であれば介護員の人数を増やしたり、浴槽ボードを使用し、安全・安楽に入浴できるようにしている。	週2～3回の提供。全員の方が浴槽に浸かっている。浴槽の窓は広く、日本庭園を感じさせる坪庭が一望できる造りとなっている。入浴を拒否される方へは、「お風呂」というワードを使用せずに、「散歩しよう」や「娘さんから貰った服に着替えましょう」と言葉掛けをして誘導している。季節湯として、ゆずを浮かべて気分を味わっている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の訴えを聴き入れ、休息してもらっている。また、居室内の環境を整えたり、寝具の交換などしたりして、安眠できるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員と薬剤師とで連携を取り、処方時に薬の確認を行っている。看護職員から介護員へ薬の内容の変更や副作用など、引継ぎ簿に記載し、職員で周知できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中の会話や家族から聴きとった生活歴などから、利用者の嗜好品や楽しみを把握し、提供できるよう支援している。また、洗濯ものたたみやゴミ箱づくりなど、今までしてきたことを生活の中で活かせるよう支援している。	計算ドリルや塗り絵をして過ごしている。評価当日は、生け花が得意な利用者がサクラノボの木を生けていた。利用者が作成したゴミ箱がテーブルに置かれていた。洗濯物干しや畳む作業、食事の下拵えとして、玉ねぎの皮むきやきゅうりの塩もみをして頂いている。メモ用紙を作成している方もいる。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	懇談会で聴きとった外出先を参考に、外出支援を行っている。明神池で魚に餌をやったり、自宅に帰ったり、地域の祭り、サロンにも参加している。	懇談会で行きたい場所を聞き取り、月1回の外出支援に繋げている。松陰神社、陶芸の展望台、奈古の道の駅、近隣のスーパーでの買い物に出掛けた。気候の良い日には、特養の庭に咲く、桜や紫陽花を観たり、海を眺めたりして過ごしている。家族との外出は可能で、気分転換となっている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金は管理者、棟責任者で管理しており、必要時には、出金し使えるよう支援している。パンの移動販売や外出時の支払い等を自分で行っている利用者もいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と手紙のやり取り、電話ができるよう、家族からの電話の際には、電話口まで誘導し、話ができるよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合わせた壁画を作成し、季節が感じられるような工夫を行っている。また、光がまぶしい際には、ロールカーテンを使用したり、室温を調整したり配慮している。ウッドデッキと庭園があり、季節の移り変わりが感じられる環境の中で、天気が良いときは外気浴を行ったりしている。	天井が高く広々としたリビングでは、利用者は落ち着いて過ごしている様子が窺えた。両ユニットからは中庭が見え、それを取り囲むようにウッドデッキがある。気候の良い日には、行事をしたり食事をしたりして、ゆったりと過ごしている。季節に応じた作品を作り、3月は雛祭りに関する作品が掲示されていた。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に、畳の空間があるが、利用者から離れて独りになれる空間は、居室か廊下のソファとなっている。気の合う利用者と同じテーブルで過ごしてもらうなどの配慮は行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、今までの生活で使用していたものを持参してもらい、使い慣れたものでの生活ができるよう支援している。 また、家族写真や好きな花を飾るなどし、居心地よく過ごせるように工夫している。	備え付けは、エアコン、洗面台、加湿器。畳の部屋が3ヶ所ある。掃除は毎週1回行い、できる方には窓ふきを手伝って頂いている。使い慣れたタンス、テーブルや椅子を持ち込み、自分らしい空間を演出していた。誕生日に家族や職員からプレゼントされた色紙、家族や孫の写真が大切に飾られていた。携帯電話も持ち込み、家族や知人との会話を楽しんでいる方もいる。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には洗面台を設置し、整容を自ら行えるようにしている。 トイレ内と廊下には手すりを設置し、歩行する際、リスクにならないよう、廊下へ物を置かないようにしたりと、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31,32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570400303		
法人名	社会福祉法人 山口県社会福祉事業団		
事業所名	グループホーム オアシスはぎ園		
所在地	山口県萩市大井1689番地13		
自己評価作成日	令和 6 年 11 月 15 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業団の理念である「その人らしさを大切に」を基本としながらも、事業所独自の理念を作成している。その理念を念頭におき、利用者の思いに添えるよう職員全員が工夫しながら、日々の支援に取り組んでいる。
毎月、懇談会を開催し、利用者から聴き取った要望等に応えられるようにしている。例えば、調理の日に食べたいものを聴き、献立に取り入れたり、外出したい先を聴き取り、月1回の外出支援の際には、応えられるように計画を立て、実行している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3570400303-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 7 年 3 月 3 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

評価当日は雨や風が強かったが、施設の玄関を開けると天気を忘れさせるかのように、管理者と利用者が笑顔で出迎えてくれた。法人理念である「その人らしさを大切に」をより浸透させるべく取り組んだ1年であった。スピーチロックを減らせるように、リビングに置き換え言葉を貼り、身体拘束委員会で、振り返りの場を設けている。その成果が徐々に表れ、スピーチロックの意識が高まっている。月1回の懇談会にて、利用者から外出したい場所や調理の日に食べたい物を聞き取るようにしている。毎月の外出支援では、松陰神社、陶芸の展望台で紫陽花を見て、奈古(なご)の道の駅や近隣のスーパーでの買い物、海や山の景色を眺め、春には桜を見た。嗜好調査をした上で、餃子付きラーメンやかき揚げ天ぷら、利用者と一緒に買い物へ出掛けて握り寿司を購入、冬には熱々のおでんを頬張った。管理者は、出勤した際には必ずの利用者全員と挨拶を交わし、TVのニュースや最近の話題についての話をし、コミュニケーションを図っている。施設を一言で表すと「明」と答えてくれ、明るい日差しが差し込むリビングでは、明るい雰囲気過ごしている利用者の様子も窺えた。また、グループホーム理念にもある、明るく笑顔で接し、思いに寄り添っている施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、事務所内に掲示し、目につくようにすることで、共有している。	法人理念である「その人らしさを大切に」の文言が玄関、事務所、各ユニットのリビングに掲示している。GHの独自の理念は手書きで事務所に掲示している。法人理念は、毎朝園長と一緒に確認する機会を設けている。新人職員には、入職時に説明して、介護業務の中で浸透できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの道の駅へ出かけたり、地域のふるさと祭り、サロンへの参加を行うなどし、地域とのつながりを大事にしている。また、週1回、馴染みの移動パン屋での買い物を行うことも行っている。	秋には、大井のふるさと祭りに参加した。奈古の道の駅に出掛けて、出会った方と挨拶を交わしている。毎週火曜日の移動販売のパン屋が利用者の楽しみの一つとなっている。地域の農家からお米を買っている。手芸クラブの方との交流も続いており、コースターや小物入れ、フクロウの人形のプレゼントがあった。	地域の関わりを今以上に深めてみてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームとしての地域貢献は行っていない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年度より、運営推進会議を対面で行っており、利用者状況や活動報告、感染症に関することなどを報告し、そのことに対する貴重な意見を参考に、サービスの向上に活かしている。	外部評価を受審するにあたり、評価項目を管理者が作成した。評価結果は会議の際に、職員に伝達するようにしている。また、気にあることがあれば各自で確認するようにしている。課題については、管理者から職員へ伝えて、全員で取り組んで解決できるようにしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり、グループホームでの運営推進会議は行っていないが、利用者状況や活動内容、感染症に対することなど、記載したものを郵送し、意見をもらっている。その意見を参考に、サービスの向上に活かしている。	今年度より対面で実施。4名の民生委員、2名の消防団、市の高齢者支援センターの方、GH職員と利用者が参加している。運営状況、活動報告、感染症について話し合った。モニターを活用して普段の様子がみれるようになり、わかりやすいとの好評の声が挙がっている。	
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールや電話などで連絡を取り、事業所の運営に関してや利用者のサービスに関することなど、伝える事で、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	窓口は管理者が中心となっている。介護支援課には、直接書類を持参することが多く、顔を合わせる関係が継続されている。メールでやり取りすることもある。運営推進会議にも市の職員が参加している。法人での取り組みとして、中学校に向いて、介護の講座を開いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、職員の身体拘束廃止に対する意識を高めている。また、年に2回、研修を実施し、身体拘束しないよう、職員への周知も行っている。	身体拘束の確認やスリーロックについて学びを深めた。今年度の目標として、スピーチロックを減らせるように取り組んだ。キッチンには、スピーチロックの言い換え表が貼っている。年度末の集計では、減っているとの結果が出た。年2回の研修では、動画を視聴をし、簡単なテストにより、振り返りの場を設けている。	スピーチロックについての意識を更に高めてみてはいかがでしょうか。
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に、虐待防止委員会を開催し、職員への意識を高めている。また、年に2回、研修を実施し、虐待に対する意識を職員がもてるようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で、権利擁護に関する研修を行うことで制度等への理解を深めるとともに、利用者の制度活用の必要性について意識することができている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書に沿って、話をし、質問等は、常に受けるようにしている。解約時にも話をし、分からないことや疑問点は、解約後も受けれるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者や苦情解決第三者委員をはじめ、苦情処理の体制については、利用者及び家族等に周知している。また、苦情マニュアルを作成し、苦情窓口・意見BOXを設置し、意見や要望を受け、サービス向上に反映させている。	月1回の懇談会にて、外出したい場所や調理の日に食べたい物を聞き取っている。サロンに出掛けた際には、大好きな焼きたてのパンを手に取って満面の笑みを浮かべ、冬にはおでんを希望される方が多く、鍋を囲んで美味しく頂いた。家族からの要望として、外出支援が挙がり、実際に外食や自宅へ帰られた方もいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、職員の意見や提案を聴く機会を設け、反映できるよう努めている。管理者も、グループホーム会議などで、意見や提案を聴き入れ、反映できるよう努めている。	月1回、ユニット会議やGH会議がある。何かあれば随時、管理者は話を聞く場を設けていて、直接意見を言われる方が多い。管理者で解決が難しい場合には、園長と相談して決めるようにしている。有給休暇や希望休も取得できている。利用者にわかりやすいように「ここを通らない様に」との貼り紙を掲げ、安全面に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況等を把握し、職員がやりがいや向上心を持って働けるよう、職員からの聴き取りを行い、職場環境の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修を受ける機会があり、力量の把握にも努めている。	GHの内部研修では、虐待、身体拘束、感染症対策、認知症について学んだ。法人全体では、ハラスメント、権利擁護、アンガーマネジメントについて学んだ。外部講師を招いて、感染症の訪問ラウンドを実施して、対策やアドバイスを頂いた。新人職員へは、研修をした後に、現場から学ぶようにしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の取組を聴きに、施設見学に行ったり、新たなことを始める際に、研修を行ってもらったりし、他施設と交流する機会を作り、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いを傾聴し、信頼関係を築けるよう努めている。日常生活の会話の中や月1回開催する懇談会の中で、要望等、聴きとるようにし、安心して生活できるよう支援している。。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、家族の思いや要望を聴き取る機会を設け、信頼関係構築に努めている。家族の意見、要望は、介護計画に反映させている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に、利用者、家族の要望を聴きとり、必要としている支援を見極めるように努めている。また、支援について変更の必要があれば、職員間で早急に検討し、安心して生活ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において利用者一人ひとりができること（食事を作ったり、洗濯物をたたんだり）を見つけ、職員が支援しながらでも利用者が自分でできるようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には職員も同席し、日頃の様子や本人の思いを伝えている。また、利用者の心身において不安な点があれば、早目に家族に連絡し、対応策を協議している。 誕生日会がある際には、家族からのメッセージカードを送ってもらえるように声をかけたり、月1回の写真入りのお便りにて、利用者の状態を伝えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や馴染みの場所等への外出支援を行ったり、地域のサロンに参加し、顔なじみの地域の人と、昔話をしながら過ごす時間を設けている。	面会は玄関先で対面で実施していて、週1回来られる方もいる。5～6名の方は年賀状のやり取りもあり、2名の方は携帯電話を持ち込み、家族や知人との会話を楽しんでいる。外出中のドライブでは、馴染みの風景が目飛び込むと、懐かしい気持ちになる方もいる。ショートステイや特養におられた方は、園内でも馴染みが形成されていた。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流する場では、人間関係を観察し、配席などに配慮しながら、トラブルや孤立を防ぐよう努めている。 また、利用者が助け合って作業する機会を設け、利用者同士の繋がりを大切にしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者家族からの相談にも対応し、利用者の状態を確認するなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	懇談会を月1回開催し、本人の思いや希望（調理の日の献立や外出したい場所など）等の聴き取りを行い、献立に取り入れたり、外出支援先にしたりして要望に応えらえるようにしている。 また、3ヶ月に1回、カンファレンスを開催し、本人の意向に沿ったプランになるよう検討を行っている。	月1回の懇談会にて、外出したい場所や調理の日に食べたい物を聞き取っている。ふと、つぶやいた情報でも日誌に書き留めて情報共有をしている。散歩や入浴時といったマンツーマンの際に意見が出ることも多く、貴重な場となっている。あまり言葉を発しない方へは、家族からの聞き取りや担当職員が居室で話を聞くようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴等について、入所前に家族やケアマネより情報収集を行い、介護計画作成の参考にしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の生活状況、発言、心身の状態などで気になることは日誌に記載するようにし、様々な情報を職員間で把握できるようにしている。また、その情報を支援に反映させるよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回、カンファレンスを開催し、看護職員、介護支援専門員を交え、本人に合ったプランを作成している。利用者の状態に大きな変化があった場合には、早急にカンファレンスを行い、計画の見直しを行っている。月1回のモニタリングも実施し、現状の課題を見出している。	介護計画は、入居時に暫定プランを立てて、何もなければ、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月毎に作成している。GH会議でカンファレンスを実施している。担当職員が中心となり普段の様子を確認し、ケアマネジャーと相談してプランを作成している。モニタリングは毎月実施して、3ヶ月で見直している。利用者の様子に合わせて、現状に即したプランとなっている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に日々の様子を個別に記載し、職員間で共有できるようにしている。また、利用者のケア方法の変更などは、引き継ぎ簿を活用し、情報共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態変化に伴い、提供するケア方法を職員間で検討し、試行しながら変更できるよう取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの店への買い物、サロンへの参加など、地域資源を活用しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医についての希望を聞いている。内科については、協力医療機関の往診を月2回受けている。歯科についても、希望があれば往診対応している。受診の際には、家族に一報入れ、診察内容を伝え、診察を希望するか希望を聴いている。	入居時にかかりつけ医は選べ、全員が協力医に転医している。月2回の往診があり、ドクターとの関係も良好で、和やかな雰囲気にも包まれている。常勤の看護師がいて、医療関連の窓口ともなっている。看護記録やバイタル表、日誌に記録して利用者の情報を共有している。必要に応じて歯科往診もある。他科受診は、家族か看護師が対応している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異変等に気付いた際は、看護職員に報告し、適切な処置、対応が受けられるよう支援できている。朝夕の引継ぎ時に、看護職員からの利用者への対応に関する情報も伝えられており、情報共有できている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院する際には、グループホームでの情報を提供し、安心して治療できるよう対応している。また、入院中、利用者の状態確認を行い、早期退院への対応も行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでできることを伝えている。グループホームでの生活が難しいと判断し、介護度も上がってきた段階で家族へ他施設への入所申し込みを促したり、併設している特養との連携を図り、入所できるよう取り組んでいる。	看取りは実施していない旨を入居時に、重要事項説明書にて確認をしている。重度化された場合には、法人内の特養に移られる方が多い。終末期を迎えた際には、協力医院と連携して話し合いの場を設けている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	事故があった際には、会議の際、振り返りを行い、改善策を職員間で周知し、再発防止に努めている。定期的に、応急処置や初期対応の訓練は行っておらず、実践力を身につけているとはいえない。	ヒヤリハット、事故報告があつた際には、該当職員が記入するようにしている。日誌や引継ぎ時に確認し、情報共有をしている。法人のリスクマネジメント委員会を開催し、事故が起きた状況や場所を表にして見える化を図り、今後の課題として取り組むようにしている。事故が起こった際には、紐解きができるようにフローチャートのようなものを使用している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時や夜間の火災における避難の方針を書面に記し、避難方法や手順を職員に周知するとともに、地域の消防団と運営推進会議時に話をするなどし、協力体制を築いている。	年2回、GH単体と法人全体の訓練を行い、火災・津波想定で実施し、利用者も一緒に避難できた。消防署が来られた際には、消火器やAEDの使用方法について学んだ。備蓄は、水や非常食を3日分、GH内で保管している。事務所にハザードマップと連絡網を掲示している。消防団の方が運営推進会議に参加されているので、連携も取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理や接遇についての職場内研修を実施するとともに、プライバシーを大事にする環境作りに努めている。 入浴時、排泄時など、一人一人の対応を行い、プライバシーを損なわないよう対応できている。また、プライバシーな内容を尋ねる際には、他利用者に聞こえないよう配慮した声掛けを行っている。	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、反応がよい場合には、下の名前に「さん」や「様」で呼ぶ場合もある。各部署でのチーム目標があり、今年度は接遇面の強化であり、不適切ケアに関する研修も行った。居室に入る際には、本人の了承を得たり、ノックや言葉掛けをしたりして、入室するようにしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇活動の提供時、何がしたいか尋ねたりすることで、自己決定できるよう働きかけている。また、話しかけやすいよう、利用者の様子を見て、声掛けするように心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の動きに合わせて、余暇活動や作業の提供などを行っている。本人の気持ちも汲み取り、活動への参加を無理強いないようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみは、本人が着たい衣類を着てもらっているが、必要に応じて介護員が支援している。 整容できるよう、洗顔タオルを提供したりしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部委託の配食を利用しているが、毎週木曜日の昼食は「調理の日」とし、懇談会で聴き取った利用者の希望に沿った献立を提供している。その際、食材を切ったりし、一緒に食事の準備を行っている。また、テーブルや皿、おぼんを拭いてもらったりと、片付けも一緒に行っている。 誕生会がある際には、誕生会ケーキ作りを一緒に行ったり、週1回、菓子パンの移動販売があり、希望者は自分の好みのパンを購入し食している。	3食ケータリングだが、毎週木曜日に「調理の日」を設けていて、利用者からの嗜好調査を参考にし、おでん、ラーメン、天ぷら、寿司を提供した。利用者は落ち着いて、静かに食している様子が窺えた。誕生日会ではケーキ、おやつ作りでは、たこ焼きを一緒に作ったら喜んで頂けた。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量が分かるよう、表にして、いつでも確認できるようにしている。また、1日の水分摂取量を決め、ボトルに作成し、提供している。会議時に、本人に合った量、形態が提供できているか検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合った口腔ケア用品で口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認している。水でのうがいが必要な利用者に対しては、ウエットティッシュで口腔内を清拭するなど、介護員が必要なケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがない利用者に関しては、声掛けや定期的な排泄誘導を行っている。 また、一人ひとりの尿量にあわせて尿取りパットを使用し、利用者の不快感が軽減するよう努めている。	トイレは各ユニット4ヶ所ある。排泄チェックは日誌に記録して、職員間で情報共有をしている。自分で行かれる方が普通のパットから装着パットに替わった事例もある。5名の方が自立でトイレに行っている。布パンツで過ごされている方も3名おられ、夜間のみポータブルトイレを使用されている方は6名おられる。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別で、排便に良い食べ物、飲み物(牛乳、ヤクルト)を提供したり、体操を取り入れたりして、便秘予防に努めている。 下剤については、利用者の排便ペースに合わせて服用している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間については、可能であれば本人の希望に沿うよう対応している。行事や往診などで入浴日や時間が変わる際には、利用者に伝えている。 入浴には、ゆっくりとした時間をとり、リラックスできるよう配慮している。 身体状況により、必要であれば介護員の人数を増やしたり、浴槽ボードを使用し、安全・安楽に入浴できるようにしている。	週2～3回の提供。全員の方が浴槽に浸かっている。浴槽の窓は広く、日本庭園を感じさせる坪庭が一望できる造りとなっている。入浴を拒否される方へは、「お風呂」というワードを使用せずに、「散歩しよう」や「娘さんから貰った服に着替えましょう」と言葉掛けをして誘導している。季節湯として、ゆずを浮かべて気分を味わって頂いている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の訴えを聴き入れ、休息してもらっている。また、居室内の環境を整えたり、寝具の交換などしたりして、安眠できるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員と薬剤師とで連携を取り、処方時に薬の確認を行っている。看護職員から介護員へ薬の内容の変更や副作用など、引継ぎ簿に記載し、職員で周知できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中の会話や家族から聴きとった生活歴などから、利用者の嗜好品や楽しみを把握し、提供できるよう支援している。また、洗濯ものたたみやゴミ箱づくりなど、今までしてきたことを生活の中で活かせるよう支援している。	計算ドリルや塗り絵をして過ごしている。評価当日は、生け花が得意な利用者がサクランボの木を生けていた。利用者が作成したゴミ箱がテーブルに置かれていた。洗濯物干しや畳む作業、食事の下拵えとして、玉ねぎの皮むきやきゅうりの塩もみをして頂いている。メモ用紙を作成している方もいる。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	懇談会で聴きとった外出先を参考に、外出支援を行っている。明神池で魚に餌をやったり、自宅に帰ったり、地域の祭り、サロンにも参加している。	懇談会で行きたい場所を聞き取り、月1回の外出支援に繋げている。松陰神社、陶芸の展望台、奈古の道の駅、近隣のスーパーでの買い物に出掛けた。気候の良い日には、特養の庭に咲く、桜や紫陽花を観たり、海を眺めたりして過ごしている。家族との外出は可能で、気分転換となっている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金は管理者、棟責任者で管理しており、必要時には、出金し使えるよう支援している。パンの移動販売や外出時の支払い等を自分で行っている利用者もいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている利用者に関しては、本人が好きな時間に電話できるよう支援している。また家族と手紙のやり取り、電話ができるような対応も行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合わせた壁画を作成し、季節が感じられるような工夫を行っている。また、光がまぶしい際には、ロールカーテンを使用したり、室温を調整したり配慮している。ウッドデッキと庭園があり、季節の移り変わりが感じられる環境の中で、天気が良いときは外気浴を行ったりしている。	天井が高く広々としたリビングでは、利用者は落ち着いて過ごしている様子が窺えた。両ユニットからは中庭が見え、それを取り囲むようにウッドデッキがある。気候の良い日には、行事をしたり食事会をしたりして、ゆったりと過ごしている。季節に応じた作品を作り、3月は雑祭りに関する作品が掲示されていた。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に、畳の空間があるが、利用者から離れて独りになれる空間は、居室か廊下のソファとなっている。気の合う利用者と同じテーブルで過ごしてもらうなどの配慮は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、今までの生活で使用していたものを持参してもらい、使い慣れたものでの生活ができるよう支援している。 また、家族写真や好きな花を飾るなどし、居心地よく過ごせるように工夫している。	備え付けは、エアコン、洗面台、加湿器。畳の部屋が3ヶ所ある。掃除は毎週1回行い、できる方には窓ふきを手伝って頂いている。使い慣れたタンス、テーブルや椅子を持ち込み、自分らしい空間を演出していた。誕生日に家族や職員からプレゼントされた色紙、家族や孫の写真が大切に飾られていた。携帯電話も持ち込み、家族や知人との会話を楽しんでいる方もいる。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には洗面台を設置し、整容を自ら行えるようにしている。 トイレ内と廊下には手すりを設置し、歩行する際、リスクにならないよう、廊下へ物を置かないようにしたりと、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)		1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31,32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				